

第3回沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議

令和7年度の直轄調査の方針について

令和7年7月16日

内閣府沖縄総合事務局運輸部

①沖縄交通リ・デザインが目指す豊かな沖縄

- 目標・目指す姿としての「豊かさ」は以下の両輪。
 - ✓ 自由や精神的豊かさ
 - ✓ 経済的・物質的豊かさ
- 経済的・物質的豊かさについては、単なる全体の富の集積ではなく、全員が未来の選択肢を選べるという観点を前提。
- 経済的には「実質所得－移動コスト＆時間費用」であり、この指標を全国トップクラスに。
- 両面の豊かさを示す社会的指標を満たすことを目的に「交通」×「〇〇」を一体的に設計。

②多様で質が高い移動環境の整備

- 多様な選択肢があり、自由に行動・移動を選択・決定できることができることが、移動の質の高さであり、個人が行動選択をする意味をつくる。
- こうした個人の自由な選択こそが、暮らす価値や訪れる価値、生き方への満足度につながる。
- これらを実現するための移動環境の整備や利便性向上であり、そのためのデータの利活用やサービスの再編。
- あわせて、例えば、検索・決済・発券の自動化を通じ、定時性・速達性・予見可能性を向上させる必要。



③「楽しい」移動の主体的な実践

- 多様な選択肢から目的に応じた移動を選択することによる「楽しさ・満足感」を実感させることが重要。
- この点、免許を保有していない若年層や障がい者については、免許保有者に比べ、移動・行動の選択に、より不自由を感じている可能性が高い。（移動制約者）
- まずは、こうした若年層や障がい者をターゲットにサービスを設計し、同時にアクションを引き出すことを通じて、自由な選択による楽しさ・満足感を生み、習慣化・定着を目指す。

④インセンティブと好循環の設計

- 皆が移動やライフスタイルを多様な選択肢から自由に選択するためには、公共交通機関利用による通勤手当が支払われるなど、個々人の金銭的な負担が移動手段やライフスタイルによらないことが前提。
- 他方で、現状、企業や市町村による補助には財源面での限界があることも事実。
- 通勤手当支給のための財源を確保するため、収益性の確保→人材への投資→収益性の向上→再配分（人材への再投資）という好循環を設計し、全員で実践。

- 今年度、内閣府においては、
 - ・ 令和7年度沖縄における持続可能な交通環境構築調査（内閣府沖縄振興局予算）
 - ・ 沖縄交通リ・デザインの目指す姿・目標の設定及び市民の更なる巻き込み戦略の設計に向けた調査検討業務（国土交通省予算）の2つの直轄調査を実施予定。
- 各調査については、第2回沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議（令和7年3月27日開催）及び令和7年5月21日に開催したマーケットデザインチームにおいて、今後目指す方向性・視点として示した以下の4点を踏まえつつ、パブリックインボルブメントを実施しながら検討を行うこととする。
 - ① 沖縄交通リ・デザインが目指す豊かな沖縄
 - ② 多様で質が高い移動環境の整備
 - ③ 「楽しい」移動の主体的な実践
 - ④ インセンティブと好循環の設計
- このうち、内閣府沖縄振興局予算については③を、国土交通省予算については①及び④の検討を主に行うこととし、パブリックインボルブメントを通じて得た市民の声を踏まえ、②についても検討することとする。

国土交通省予算による調査の概要

- (1) 目指す姿・目標等の調査検討
 - 欧州委員会のSUMPやOECDのWell-being Framework等を踏まえ、目指す姿・目標及びモニタリングのための視点・指標を地域や住民が主導して設定する手法の設計
 - 先行的に県内の複数エリアにおいて試行
- (2) 市民の更なる巻き込みのための調査・戦略設計
 - 行動変容を促す仕組みやインセンティブ、メディア、著名人、既存のイベント等の活用を含めた市民の更なる巻き込みのための戦略設計

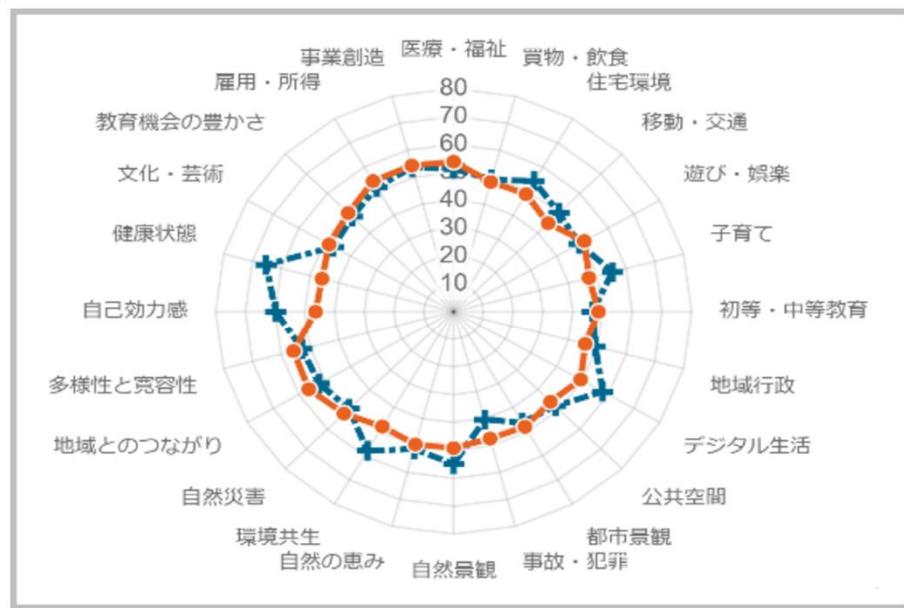
沖縄振興局予算による調査の概要

- (1) 通勤・通学時における行動変容調査
 - 通勤については、沖縄県が実施する予定のPI事業と連携し、通勤の行動変容のための実証を実施
 - 通学については、中南部地区の複数の高校を対象に、ワークショップ等のPIを実施し、昨年度の調査結果も踏まえ、競争やゲーム的な要素も含めた通学の行動変容のための実証を実施
- (2) シンポジウムの開催

令和7年度の直轄調査の方針について（全体スケジュール）

			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
令和7年度 沖縄における 持続可能な 交通環境構築 調査	(1) 通勤・通学時 における行動 変容調査	1) 企業の通勤に かかる行動変容調査	企業の選定	企業との協議・ 取組選定	実証	とりまとめ・ 広報戦略検討							
		2) 学校の 通学にかかる 行動変容 調査	首里 高校	プロセス設計・ 学校との協議	WG開催・ 取組選定	実証	とりまとめ	NL※ 作成	取組結果を PR				
	(2) シンポジウムの開催		学校選定	プロセス設計	WG開催・ 取組選定	実証	とりまとめ	ガイドライン更新					
			ガイドライン作成				ガイドライン更新	開催準備	開催				
沖縄交通 リ・デザインの 目指す姿・目標 の設定及び 市民の更なる 巻き込み戦略の 設計に向けた 調査検討業務	(1) 沖縄交通リ・デザインの 目指す姿・目標等の調査検討		得られた 意見を反映	資料 作成	実証計画の 報告	資料 作成	資料 作成	報告書作成					
	(2) 市民の更なる巻き込みのため の調査・戦略設計		調査	戦略設計	PI等の 取組	とりまとめ							
	(3) 報告書の作成		調査	今年度の 戦略設計	中長期の 戦略設計	とりまとめ							
				資料 作成	調査結果の 報告	資料 作成	資料 作成	報告書作成					
【参考】令和7年度沖縄県県民等参加型 地域公共交通検討事業				PI実施									
沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議・ マーケットデザインチーム						★ (想定)			★ (想定)				

※NL：ニューズレター



橙色の線 = 主觀評価、青色の線 = 客觀評価

カテゴリー名称	
生活環境(16)	地域の人間関係 (2)
医療・福祉	公共空間
買物・飲食	都市景観
住宅環境	自然景観
移動・交通	自然の恵み
遊び・娯楽	環境共生
子育て	自然災害
初等・中等教育	自己・犯罪
地域行政	
デジタル生活	

生活環境 (16)	
医療・福祉	子育て
<ul style="list-style-type: none"> ■ 特定健診受診率 ■ スポーツ行動者率 ■ 嘸嗽率(-) ■ 人口あたり生活習慣病受療者数(-) ■ 人口あたり気分障害（うつ等）受療者数(-) ■ 可住地面積あたり医療施設数 ■ 人口あたり医療施設数 ■ 人口あたり産科・産婦人科医師数 ■ 人口あたり児童福祉施設数 ■ 人口あたり障害者施設数 ■ 可住地面積あたり介護施設数 ■ 人口あたり介護施設数 ■ 人口あたりホームヘルパー数 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保育所まで1km未満の住宅割合 ■ 可住地面積あたり地域子育て支援拠点箇所数 ■ 学童保育設置率 ■ 財出総額における教育費の構成比 ■ 人口あたり待機児童数 (-) ■ 合計特殊出生率
買物・飲食	デジタル生活
<ul style="list-style-type: none"> ■ 可住地面積あたり小売店舗数 ■ 人口あたり小売店舗数 ■ 可住地面積あたりコンビニエンストア数 ■ 人口あたりコンビニエンストア数 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自治体DX指数 ■ デジタル政策指数 ■ デジタル生活指数
住宅環境	公共空間
<ul style="list-style-type: none"> ■ 平均面積(住宅地)(-) ■ 一戸建の持家の割合 ■ 移動・交通 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 可住地面積あたり市公園数 ■ 人口あたり市公園数 ■ 可住地面積あたり市民農園面積 ■ ウォーカブル指数
遊び・娯楽	都市景観
<ul style="list-style-type: none"> ■ 余暇時間 ■ 教養・娯楽サービス支出 ■ 可住地面積あたり映画館数 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 都市景観指数
移動・交通	自然景観
<ul style="list-style-type: none"> ■ 可住地面積あたり駅・バス停数 ■ 人口あたり駅・バス停数 ■ 職場までの平均通勤時間(-) ■ 道路整備率 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自然景観指数
自然の恵み	自然の恵み
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食料生産ボテンシャル ■ 水供給ボテンシャル ■ 木材供給ボテンシャル ■ 炭素吸収量 ■ 蒸発散量 ■ 地下水涵養量 ■ 土壌流出防止量 ■ 窒素除去量 ■ リン酸除去量 ■ NO2吸収量 ■ SO2吸収量 ■ 洪水調整量 ■ 表層削除からの安全率 ■ 緑地へのアクセス度 ■ 水域へのアクセス度 ■ オートキャンプ場への立地
事故・犯罪	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人口あたり交通事故件数 (-) ■ 人口あたり刑法犯認知件数 (-)
地域行政	

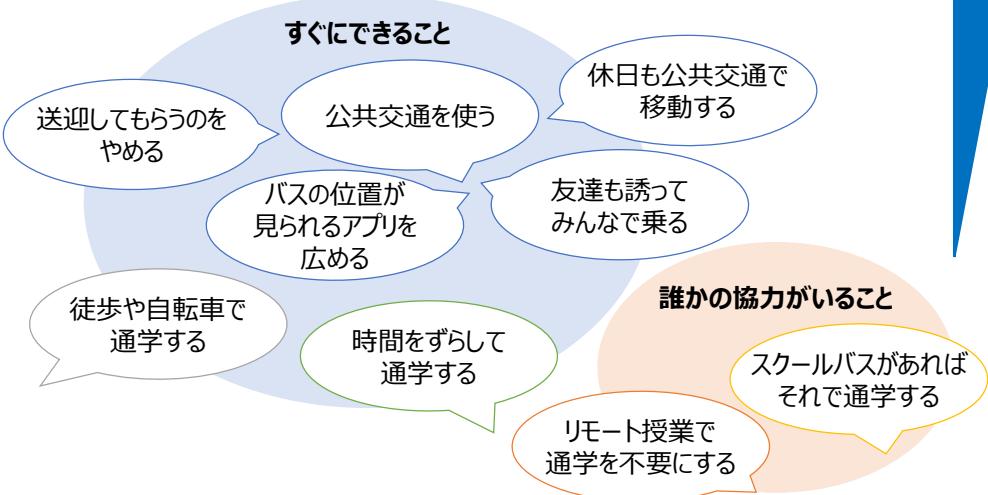
例えば、これらの項目について、「移動」との関係性を整理しつつ、目指す姿・目標等の設定やモニタリングに活用するための手法を検討。

<ワークショップの実施>

・テーマ①「沖縄の理想の未来」



・テーマ②「理想の未来のために私たちは何ができるか」



<通学に関する主体的なアクション>

【移動手段の分散】

公共交通を使う
×遅刻の緩和



送迎場所を
変える



徒歩や自転車で
通学する

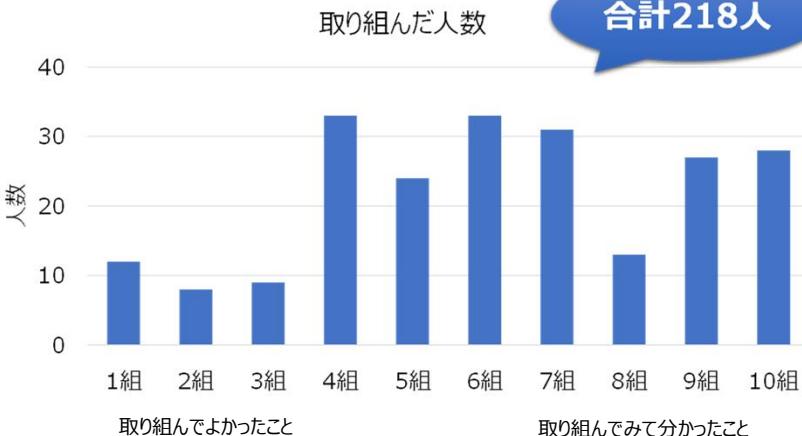


【時間の分散】

朝8時までに
登校する



合計218人



- 朝の時間を有効に使えた
- 友達と過ごす時間が増えた
- 送迎する親の負担が減った
- からだを動かすことができた
- 早い時間のバスは空いている
- 雨の日は遅れたり濡れるので大変
- この季節（冬）は朝早いと寒い
- バスの乗り場を間違えてしまった